

内的環境

道路、港湾等基盤施設の不足

- ・大型化船舶に対応した施設が不足
- ・貨物混在バース、コンテナヤード不足
- ・薫蒸施設、クレーンの不足
- ・市街地

コンテナ貨物が少ない

- ・国際定期航路が少ない
- ・コンテナ混載輸送ができない

競争原理が働かない

- ・高コスト、時間がかかる
- ・手続きに時間がかかる
- ・物流形態の変化に未対応

夜間荷役の制限

船舶、基盤施設の老朽化

切迫する大規模自然災害

厳しい自然条件

- ・長周期波による荷役障害（太平洋側）
- ・船舶航行の難しさ（瀬戸内海）

弱みを克服

弱み

コンテナ貨物の増加

アジア航路の寄港の可能性

フェリー、RORO等の利用が活発

静脈物流の増加

日本有数、世界有数の企業が立地

地

基礎素材型、生活関連型産業が立地

強みを補強

強み

四国国際物流戦略チームの施策骨子案

四国の主要産業を支えるバルク輸送の効率化

- ・多目的国際ターミナルの整備
- ・瀬戸内海航路の整備
- ・内航海運への支援

コンテナ輸送の効率化、円滑化

- ・コンテナヤードの確保、クレーンの確保、薫蒸施設の設置
- ・（アジア向け）コンテナ貨物の集約化
- ・新たなコンテナ航路（アジア）の誘致

国際物流を支える国内幹線輸送網の強化

- ・内航海運の迅速化、効率化
- ・内外貿岸壁の連続化
- ・コンテナ規格の統一（20feet、40feet）

港湾、空港と幹線道路を結ぶアクセス道路の強化

- ・ボトルネックとなる交通渋滞の解消、道路構造の改善、老朽化対策、高速道路の充実

諸手続の円滑化等のソフト面の対策強化

- ・手続きの迅速化、簡素化
- ・電子化等IT化の推進
- ・夜間荷役への対応

<その他>

国際物流施設の地震津波対策

静脈物流対応の施策

国際航空貨物輸送の効率化

倉庫等物流高度化施設の機能強化

厳しい自然条件への対応（自動係船装置等の開発）

コンテナポート追記

外的環境

船舶の大型化

アジア地域の準国内物流化

近隣の中枢港湾（阪神港）に国際基幹航路が就航

近隣に国際空港（関空）が存在

外的環境
を利用